

世界遺産へ向けて

世界遺産フォーラム2009 (vol. 6) 「石見銀山遺跡」

3か所目の世界遺産、「石見銀山遺跡とその文化的景観」は、島根県大田市の大國晴雄さんです。大國さんは、「石見銀山は、緑の山に囲まれていて、一見何があるのかわからないが、発掘調査すると地面の下から銀山の遺跡が実際に出てくる。地味だけど奥が深い。平泉寺と似ている点が多い。」とお話しされました。

また、世界遺産に向けて、行政は28年間取り組みをしているが、地元の人々は、50年間にわたって、淡々と遺跡の保護活動をしていることもご紹介いただきました。石見銀山が世界遺産として高い評価を受けている点は、遺跡が良く残っていることと、その遺跡を大切にしながら、遺跡の中で人びとがくらししていることです。世界遺産の中でくらす地元住民は、「お」を両立させることを総意とし、これにむけての取り組みを一生懸命行っておられます。

《次号へ続く》



石見銀山坑道

ほっといっぶく

平泉寺こぼれ話

～第12話～ 平泉寺と一乗谷 その11

平泉寺は中世の都市として、近年多く注目を集めています。戦国時代といえば、織田信長、武田信玄、上杉謙信といった戦国大名ばかりがクローズアップされがちです。しかし、戦国大名といえども、一人では生きていけません。戦国大名の城下町は、多くの武士、商人、職人、僧侶などが住んだ大きな都市だったのです。

いまから約40年前、一乗谷は、戦国時代の城下町として、日本で最初に本格的な発掘調査が開始されました。建物、井戸、便所などの生活空間が整えられていることやすり鉢、碗、皿などの台所用品から硯、墨、紙といった文房具など、私たちにもなじみ深いものが発見されています。

その結果、朝倉義景やその家臣の屋敷はもちろんのこと、名もない住民の家も多くみつかっています。遺跡には、たくさんの人々の生きた証が残っていることを、一乗谷の発掘調査は、教えてくれました。

約20年前に始まった平泉寺の発掘調査は、戦国大名の城下町とまた違った都市の姿を明らかにしつつあります。《次号へ続く》

発掘現場通信

表紙の写真は、今年度に発掘調査を進めている、平泉寺南谷(ぼうじ)の門・土塀復元予定地の発掘調査現場の様子です。新たにみつかった、坊院内の石畳道と塀跡を拡大したのが、右の写真です。

門をくぐると、坊院のなかにはさらに石畳道が続いています。そして、左手には小さな塀があり建物の目隠しになっています。

白い○の部分は、石畳がなく、付近から越前焼の甕がたくさん出土しています。ひょっとすると、門を入ってすぐに水の入った甕があり、身を清めたのかもしれない。



国史跡平泉寺の整備情報誌

平泉寺かわら版

No.12 (2009年9月号)

【発行】

勝山市教育委員会史蹟整備課

【発行日】

平成21年9月24日

【ご意見・ご要望は下記まで】

電話：0779-88-8113(直通)

メール：shisoku@city.katsurama.fuku.jp



【今号の内容】

特集：ガイダンス施設の概要

連載：

★世界遺産に向けて

★平泉寺こぼれ話～第12話～

★発掘現場通信

姿を現した僧坊の出入り口付近
(門・土塀復元予定地)

平泉寺総合整備最前線！ 総合案内施設(ガイダンス施設)

イメージ案できました！ 模型を基に概要を説明します

ガイダンス施設は、平泉寺総合整備事業の中核施設です。

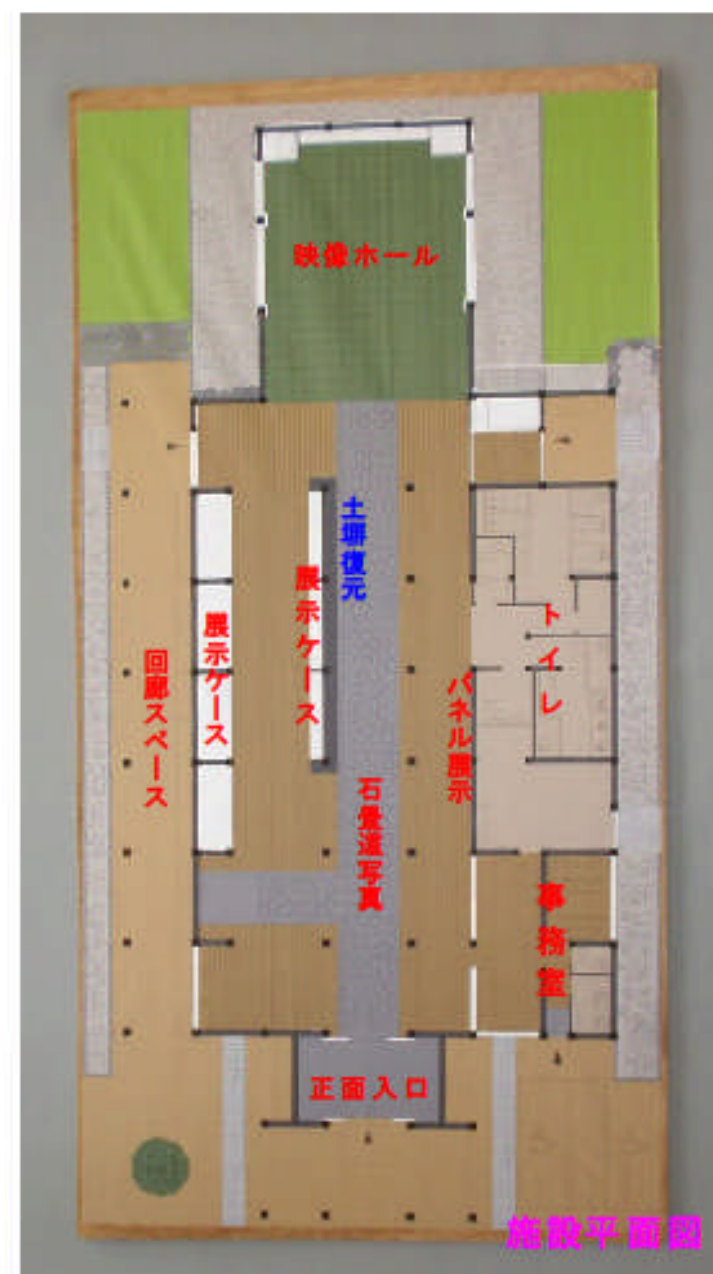
映像やパネル等で、平泉寺の歴史や発掘調査の成果をわかりやすく紹介する計画です。



ガイダンス施設の模型ができてきました。
実物の 1/50 の大きさです。
この模型で、細部をみてみましょう。



②



入口を入ると、石畳道の写真が奥にのびています。左側には土塀も復元されています。その奥には、80人収容の映像ホールがあります。



③